

モノナリ、

〔守國公御傳記六〕退職ノ後モ凡質素ヲ主トシ、往昔ヨリ代々用ヒ玉フ駕籠ハ、綠竹ヲ以緣トシ、世子ハ晒竹ヲ用ユ、是ハ二ツナキ乗物故舊輿ヲ讓リ玉フ意ナリト云傳フレドモ、由緒ハ兎モ角モ、是等ハ無用ノ形容ニシテ、何ツ迄綠竹ニテ有ベキヤ、向後父子共ニ晒竹タルベシト命ジ玉フ、園モ少綠竹ヲ用ル費又輿簾ノ緣ハ、古來ヨリ羅紗ニテ製シタレドモ、舶來ノ品ニ限ル可ラズ、吾國ニ産スル物ニテ製スベシトテ、黒天鷲絨ニ改メ、其外日覆長柄傘ノ袋、駄覆等ハ、奉職中ノ如クニシテ舊ニ復シ玉ハズ、

〔堀川後度狂歌集一〕志賀山越

青樹園繁留

越て行駕のすだれの青によしならべる玄がの花の木のもと

〔見た京物語〕醫師の駕の棒、不釣合にせい高し、一尺ほどもあらん形櫛の如し、

種類

〔青標紙〕武器及行列具的例

一 乘輿は、東山殿下に初る。○中 扱乘輿に、當時腰板、打揚引戸、腰網代、薦包等の製有、各家格によるなり、腰網代に二重腰、又腰ばかりの品有、板にも腰黒、又二重黒、又ぬらざるも有、是は各其好に任すべし、

〔續視聽草初集十〕乗物目名

網代輿。清華以下諸家中尋常ニ乗用アリ、或ハ黃或ハ溜色ニスルナリ、武家ニテハ柳營ノ乘御ノ外ニ、三家伊尾張紀ノ如キ公卿タリト云ヘドモ、乗用ナシ、但シ法中ニテ堂上ノ猶子タル僧中ハ、乗用スルコトヲ憚ラザルナリ、車ニ網代アリ、依テ其制ニ擬スルナリ、乗用ノコト打揚網代腰。打揚ト云ハ、左右ノ引戸ナク、簾ヲ揚テ上下セラル、ヲ云、是即上ノ條ニ云、古實西譚ノ塗輿ハ、四方輿ノ代リナリト、古云ル四方輿ヲ移シタルモノナリ、即轅ノ輿ト同ジク、上下シ